

高槻の政治を本気で変えたい。 だから、私は高槻市政に挑戦します。



すべては、
あしたの
高槻のために。

27歳／無所属 新人
たけなかけん
竹中健

阿武山小・中学校
春日丘高校
立命館大学法学部

1987年7月生まれ(27歳)。大学卒業後、IT企業に入社。その後政策コンサルティング会社にて全国の市長・議員の政策形成に携わる。2013年、西宮市議会議員(現 西宮市長)秘書に就任し、政治の現場で研鑽を積む。現在は「一部の利益を優先し、将来にツケを遺している政治」に危機感を感じ、地元である高槻に戻り、「住み良い街・高槻」の実現のために市政に挑戦中。趣味は読書とサッカー(中高サッカー部)。実家の近くで、妻と二人暮らし。

竹中健の政策集 <抜粋版>

1 子育て

少子化が進む高槻の未来のために、子育て支援施策は最も優先度の高い政策です。子育て世代や子供たちの声が届きにくい政治だからこそ、「本気の子育て施策」の実現のために行動し続けます。

- 待機児童解消のため、保育施設整備と保育士確保を進めるべき
- 学童保育の時間延長を検討するべき
- 「子育て支援施策」を充実させるべき

2 教育

子供がのびのび育ち、充実した教育を受けられる環境を用意することが公教育の本来の使命ですが、現在は用意できていません。だからこそ、早急に教育現場の改革に取り組むべきです。

- 「放課後校庭開放事業」を実現するべき
- 一人ひとりの子供に向き合う教育環境を整えるべき
- 府から市への教員人事権の移譲を推進するべき

3 福祉

高齢化が進む高槻は、年老いても安心・安全に暮らせる福祉充実したまちづくりを早急に進めなければなりません。

- 介護施設の充実と在宅療養を推進するべき
- 健康促進事業を充実させるべき

4 防災・道路整備

近年増加傾向にある集中豪雨への防災対策と、平成28年度に開通予定の新名神高速道路へ対応した道路整備が必要です。

- 集中豪雨対策として、貯留施設や浸透施設を整備するべき
- 新名神高速道路開通に備えた道路整備を進めるべき

さらに詳しい政策の内容はWEBをご覧ください。
<http://takenakaken.net>

私たち自身で政治を変えることができる 四年に一度のチャンスが、4月26日の選挙です。

高槻の政治を動かしているのは、私たちが選挙で選んだ市長や議員です。それなのに、なぜ私たち一般市民の感覚から政治がズレていくのでしょうか。それは、政治家は本来「市民の代表」であるべきはずなのに多くの政治家が「投票に行つた人の代表」に過ぎないからです。

前回の高槻市議会議員選挙の投票率は、51・47%。実に、2人に1人しか投票に行つていません。しかも、「投票に行かない人」だと政治家に投票を行つた人の多くは「組織票」と言われる特定の組織の意思で投票をする人たちです。組織票により選ばれた政治家たちは「組織票のため」に政治をおこないがちで、「高槻全体

のため」の政治が行なわれていません。たしかに、間違えてはいけないのは「組織票」もひとつ民意であり、決してそのものが悪いわけではないということです。ここでの問題は「投票者の多くを組織票が占め、自分の意思で投票する人が少ないこと」、そして「投票率が低いこと」なのです。

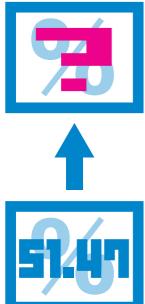
「投票に行かない人」だと政治家に決めつけられている若者や子育て世代は、政治に後回しにされています。つまり、知らない間に負担をまわされ損をしています。さらに、未成年や将来生まるてくる子供たちに至っては、投票に行きたくても行くことができません。だから、彼らのよう

「私の一票じゃ、どうせ政治は変わらないんでしょ。」

いいえ、変えられるのは、その“一票”だけです。

“一票”さえ持たない子供たちのためにも、“一票”を持つ私たちが責任のある行動を。

これが私が「投票へ行こう」と強く訴える理由です。投票は、政治家のためにするものではなく、私たちや私たちが住む高槻の未来のためにするものです。特に、お子さんやお孫さんを持つ方は、投票に行けない子供たちの声を、責任を持って「投票」という形で議会に届けてください。高槻市議会議員選挙は4月26日。誰かに指示されて投票するのではなく、「自分の意思で投票する人」が増えれば政治は確実に変わります。だから、絶対に政治をあきらめないで下さい。



これからの高槻に必要な政治を真剣に考えていただきたい、その一心で配布した45万枚の政策チラシ。

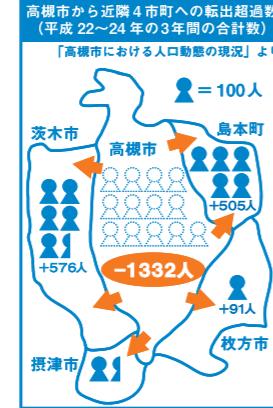


政策チラシ vol.1
「すべては、あしたの高槻のために。」

高槻の課題 「子育て世代の他市への人口流出」と「急速に進行する超高齢社会」。

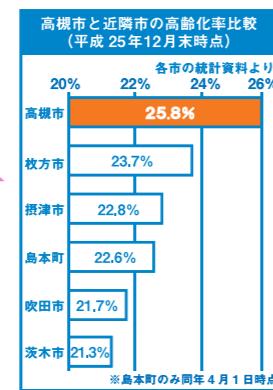
●「選ばれていない」高槻市

高槻市は人口減少が続いている中でも生産年齢人口（15～64歳）の転出超過が目立ちます。しかも、近隣市への流出が多く、住み続ける街として選ばれていない厳しい現状があります。このままでは高槻から子育て世代が少なくなり、街から活気が失われていきます。さらに、税収減により行政サービスの見直しや値上げも考えられます。



●急速に進行する「超高齢社会」

高齢化問題も、全国平均を上回る早さで進んでいます。高齢化率は平成24年末時点で25.8%という近隣市でも突出して高い数字になっています。子育て世代を高槻市へ流入させ人口バランスを整えつつ、年老いても安心して暮らせるまちづくりを、政治が早急に判断して進めるべきです。



まちづくり すべての世代が一生に渡って、「住み良い街・高槻」の実現へ。

●真の「住み良い街」を目指して。

近隣市への人口流出を防ぐために、真の「住み良い街」を目指すべきです。『すべての世代が一生に渡り、住み良い街』それが高槻市が目指すべき都市像だと確信しています。高槻市がもつ可能性を引き出し、「住み良い街・高槻」を実現するために、私はこのビジョンに基づいた政策提案をし続けていきます。



政策チラシ vol.2
「キレイごとではない、次世代のための政策の実現のために。」

政治のツケを払わされている子供たちや子育て世代。

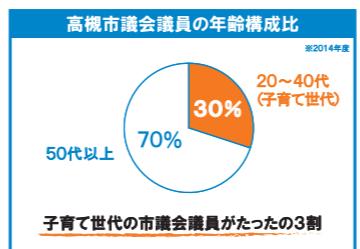
●子供たちや子育て世代の意見は

政治に反映されにくい構造になっています。

子育て支援体制や教育環境では、私と同じ子育て世代や子供たちにとって厳しい環境がなかなか改善されていません。その原因是、子育て世代の人口が少ないと加え、その投票率が低いために、政治に意見が反映されにくい構造になっているからです。政治家は口では「子供たちのために」と言いますが、やはり人口も多く投票率の高い世代に対する政策を重視しがちです。

●未来に責任を持つ世代の政治家が必要です。

さらに、子育て世代の政治家が少ないことも原因の1つです。このような厳しい現状を変えるためには、高槻の未来に責任を持つ世代から、本気で子育て・教育に取り組む政治家が必要です。だからこそ、これから地元高槻で子供を産み育てる私自身が、子育て世代の代表として立ち上ることを決意しました。



子育て教育 「本気の子育て支援施策」を進めるべき。早急に教育現場の改革に取り組むべき。

●子供の声なき声を議会に届けなければいけません。

少子高齢化が進む高槻の未来のためにも、子育て世代の流入を促すために、他市より充実した子育て支援施策を優先して進めるべきです。また、子供がのびのび育ち、充実した教育を受けられる環境を用意することが公教育の本来の使命ですが、現在はそうした環境を与えられていません。子供が子供でいられる時間に限りがあるからこそ、早急に教育現場の改革に取り組むべきです。



政策チラシ vol.3
「将来世代へのツケを遺さないために、シガラミのない政治を実現する。」

シガラミ 「迎合」する政治家たち。「批判」ばかりの政治家たち。

●政治の根深い問題 = 「シガラミ」

政治家が一番恐いものは「選挙」なので、多くの政治家は選挙に勝つために政党や団体から支援を受けます。支援団体は選挙支援に対する見返りを求め、政治家はそれに応える必要があります。選挙を取り巻くこの構造が政治を歪める「シガラミ」となっています。本来、政治家は「高槻の代表」であるべきはずなのに、このシガラミにより「自分に投票してくれた人の代表」になっています。これこそが政治の根深い問題です。私は「高槻の代表」として、高槻全体のために活動し続けることをお約束します。

●迎合でもなく、批判でもなく、「実現する政治」を。

時には市民の利益のために市長と全力でぶつかることが、議会に本来期待されている役割であるはずです。しかし、多くの地方議会は、強い権限を持つ市長と良好な関係を維持するために「馴れ合い体質」、まさに市長に右になられ状態になっています。

一方、行政をただ「批判」するだけで、政策実現の道筋や具体的な提案をしない無責任な政治家もいます。批判するだけでなく、「政策を実現する」ことこそが政治家の仕事ではないでしょうか。

新しい政治 高槻全体の未来を見据えた公正で持続可能な政治を実現させます。

●「新しい政治」始めませんか。

支援者の顔色ばかり伺う政治家。行政をただ批判するだけの政治家。こうして私たち一般市民から政治がどんどん離れていく。だからこそ、私は古い政治を打破し、「高槻の未来を見据えた合理的な判断を積み重ね、政策を実現していく公正で持続可能な政治」、そんな「新しい政治」を地元高槻で実現させたいのです。

